

# ご挨拶

(財)和歌山社会経済研究所 理事長

林 宏



本年5月の理事会において小田章前理事長が一身上の都合により辞任され、理事長代行をつとめてまいりましたが、7月2日に理事の皆様方よりご推挙をいただき理事長に就任いたしました。小田前理事長には和歌山大学長と当研究所の顔として名実ともにご活躍をいただいておりますが、その後任ということで、浅学非才な私で務まるかどうか身の引き締まる思いであります。微力ではありますが過去の経験を生かし努力してまいりますのでなにとぞ、皆様方のご支援、ご指導をお願い申し上げます次第です。

さて、一昨年秋のリーマンショックによる金融危機により、世界的に社会経済状況は厳しい時期を迎えてきていました。しかし、わが国のこの一年は新興国向けの輸出や国の経済対策などに支えられて回復基調が見られる年でした。今後も雇用情勢の悪化懸念が残っているものの、企業収益の改善が続くなかで、各緊急経済対策をはじめとする政策効果などを背景に景気の持ち直し傾向が続くことが期待されます。また、和歌山県においても当研究所が実施している「景気動向調査」において、県内の景況感「県内景況感4期連続の改善」としており、景況判断は全企業で良くなってきております。しかし、先行きについては依然としてデフレ傾向や輸出動向などの不安定要素もあり不安感を一掃できない状況にある、と分析しています。

ところで、当研究所は昭和56年の設立以来30年目を迎えました。その間、和歌山県勢発展のため、また、県内地域活性化のためにさまざまな政策提言や調査研究活動を行ってまいりました。一方、組織としての経営状況は、設立当初とは環境の変化はあるものの、主な収入財源である受託調査業務の減少や基本財産の運用利回りの低下等もあり厳しい状況が続いています。これらの状況に対応するべく、平成20年12月に「活性化ビジョン」を策定しました。これは、すでにある平成14年版「活性化ビジョン」を刷新し、「高い専門性」「時代の要請に的確に対応する進取性」「情報データの的確な処理・蓄積」、さらには、各界・関係者の必要とする人材の育成にも寄与するシステム・プログラムの構築等、価値ある活動の実現と、その成果の提供を目指そうとするものです。役職員一体となってその実現に向けて努力を積み重ねてまいります。

今後とも引き続き当研究所は、地域社会に何を求められているかを的確に判断し、和歌山県の活性化のため、受託業務はもちろんのこと自主研究事業（政策提言）にも力を注ぎ、産官で構成された県内で唯一のシンクタンクとして関係各方面への提言、情報発信していく所存です。今後とも皆様方のご指導、ご協力をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。